



竹の子川柳会

なつのうみおつきいなみがたのしいな
 小一 隆 希
 しよっぱいなうみでおよいでせきがでる
 小一 心 香
 はれたひにしゅうだんげこうあせがでる
 小一 優
 しゅわしゅわのグレイプジュースおいしいな
 小二 勇 斗
 うみのすなおだんごつくるがんばって
 小二 みるく
 あつい秋水をのんだよ気持ちいい
 小三 心 春
 海岸で景色見たらおちつくよ
 小四 翔 太
 テストの日晴れてたって気分雨
 小四 清 也
 海に行きひやけた足いたかった
 中二 海 士
 お出かけだ気に入っている晴れ着着て
 中二 海 斗
 宿題が全部終わるか心配だ
 中三 ななみ
 飲みものがないと絶対生きれない
 高二 瑠 依
 きんちようを人と飲み込み立つ舞台
 高二 ちひろ
 晴れになれてるてるばうず作るんだ
 高三 沙 耶
 高三 沙 耶

ひよし川柳会

熟睡は嫌あなたの夢を見たいから
 渡辺 光男
 優柔を熟慮と言われ面映ゆい
 山本 雅之
 未熟こそ努力重ねて大器来る
 宇都宮 忍
 遠耳にや囁き声じや聞こえない
 川添 忠昭
 熟れるまで待つては遅い売果実
 中城 英雄
 はじめての野菜作りは虫のえさ
 水野すみこ
 難儀でもやり甲斐あれば力涌く
 熊本 忠貞
 初任給で娘がくれたネックス
 兵頭 好子
 きらきらの母が浮いてる参観日
 米子 達雄
 興味津津きらきら光る園児の目
 宮川 柳酔
 若鮎の元氣きらきら青春期
 大崎 五葉
 きらきらと生きて明日の米を磨ぐ
 若宮 賢敬
 ゆとりある暮らし憧れ背伸びする
 伊勢本 恵

鬼北の足跡をたどる



総論「おに」「鬼」の系譜

鬼北町の歴史や文化と深い関わりがある「おに」について学ぶ『鬼北・「おに」の講座』が9月14日から始まりました。今回は、日本山岳修験学会理事の山本義孝さんにお話いただいた第1回「総論「おに」「鬼」の系譜」の内容を少し紹介します。

まず、漢字が倭国(日本)に伝わる前から存在する音声のみの文化の「おに」と、中国で文字文化の中で生じた「鬼(キ)」の両者が存在していたという前提の認識が必要です。漢民族(中国)がつくり上げた概念では「鬼(キ)」は死霊を意味し、神として祀ることで災いを避ける善神になると考えられていました。一方で、日本では「おに」は祖先の霊であり、山の神でもあるとされてきました。山の神の化身である「おに」が主役の仏教儀礼、修正鬼会(しゆうしやうおに)は、現在でも大分県国東半島で行われています。また、天台修験の修行道場である滋賀県大津市の葛川明王院では、修行の世話役を常鬼(じようき)、常満(じようまん)という2匹の鬼が務めていて、今もその子孫が世話を続けています。第3回の講座では鬼の子孫・常満さんに講演していただきます。

鬼北の鬼は祖先の世界を指し、「奈良山」は先祖の魂を祀る神聖な場所であること。「おに」の世界と人の世界の境目、接点に中継として造られたのが等妙寺旧境内であるということをぜひ覚えておいてください。



▲修正鬼会の様子